



2学期までを振り返り、さらなるステップアップを目指して

教頭

本校では、『自ら考え 判断し 行動する』子供の育成」の重点目標を掲げ、下記の目指す子供像と行動目標を立てて教育活動を行っています。

自己評価では、どの項目も行動目標値の80%を上回っています。ただし、どの項目も1学期に比べてマイナスになっています。2学期は、相手の顔を見て話合いができるように、授業によっては教室の机の向きをコの字型にして学習を進めました。また、挨拶を交わす人が増えるようにあいさつりレーを行ったり、廊下歩行や右側を歩くように呼びかけたりするなど、様々な取組を高学年が知恵を出し合って行ってきました。しかし、そのような学習や活動に取り組んでいても、まだ到達できていないと感じている子供たちも多いようです。

| | 目指す子供像 と 行動目標 | 行動目標値 | 2学期末の自己評価 (1学期末) |
|---|-----------------------|-------|---------------------|
| 知 | 考える子 話し手を見て話を聞くことができる | 80% | 92% (95%) |
| 徳 | 人の役に立つ子 相手の目を見て挨拶ができる | 80% | 90% (94%) |
| 体 | 元気な子 廊下や階段の右側を歩行する | 80% | 90% (94%) |

※ 数値は「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」を合わせた割合

3学期は、まずは積極的に取り組んでいることを認め、教師の思いも伝えながら日々の意欲につながる声かけを継続し、下記のように取り組んでいきたいと考えています。

- (知) 話合いの前に書く、ペアやグループで話し合う、学びの振り返りを書くなど、自分の考えや思いをしっかりもてるようにします。話す活動や書く(描く)活動を授業の中に位置付け、進んで自分の思いや意図を表現できるようにします。コの字型の座席配置やタブレットで意見を集約し、教師が意図的に指名して話し合う場を設定します。また、「安心して話せる」「安心して関われる」と子供たちが思えるような学級づくりを行っていきます。
- (徳) あいさつりレーを通して、大きな声や、会釈をして挨拶をする子供が多くなってきました。3学期は、すべての子供から挨拶が返ってくるように、各学級の実態に合わせて支援をしていきます。また、教職員から「ありがとう」と子供たちに感謝の気持ちを伝えることで、子供たち同士で「ありがとう」が言えるようにしていきます。さらに、そのような場面を見つけたら教師が積極的に学級で紹介します。
- (体) 重点的に声をかけたり、委員会活動で強調週間を設けて取り組んだりしましたが、廊下を走ることによるけががあるなど、「落ち着いて歩く」までは至っていません。そこで、2学期に引き続き、廊下歩行を強調して呼びかけていきます。また、右側歩行のために廊下に貼ってあるテープを貼り直したり、保健室前、図書室前、音楽室前等の長い廊下にも貼ったりして、廊下を走ることでのけがを防止し、委員会の子供たちが声をかけやすくします。さらに、長休みから3時間目、昼休みから掃除の際に流していた音楽の時間を長めにし、落ち着いて歩き、時間に余裕をもって次の学習や活動に取り組めるようにします。



主な行事予定

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1日(水)クラブ・3年クラブ見学 | 16日(木)学習参観(5限)・学級懇談会 |
| 2日(木)入学説明会 | スポーツ少年団紹介 |
| 3日(金)福野中学校入学説明会(6年) | 18日(土)～24日(金)家庭学習向上週間 |
| 8日(水)愛の一声運動委員会 | 21日(火)・22日(水)アルミ缶回収 |
| 15日(水)クラブ(最終)・3年クラブ見学 | 23日(木)天皇誕生日 県書初大会 |
| | 26日(日)合唱・管楽器の集い |

主体的に学ぶ姿を目指して

情報教育担当

1人1台端末を持つ時代になり、教科書の横にタブレットを並べて行う授業も増えてきました。タブレットを授業で活用することは、操作に慣れるまでは大変ですが、子供が授業を理解する助けになったり、主体的に取り組む助けになったりします。タイピングやローマ字入力ができない低学年の子供でも、様々な活用方法があり、低学年からICT機器を使うことは高学年でより幅広く活用することにつながります。低学年で実際に行われた二つの実践例を紹介します。



1年生の生活科では、秋を感じたものをタブレットで撮影し紹介し合いました。タブレットを持ち帰り、家の周りからも秋を見付けようとする姿が見られました。

2年生の音楽科では*Scratch^{スクラッチ}を使った音楽づくりを行いました。演奏が苦手な子供も、自分のつくったリズムを実際に聴くことができ、楽しみながら取り組む姿が見られました。

タブレットの活用により、授業以外であっても学ぼうとする姿、苦手であっても楽しんで取り組む姿が見られます。このような「主体的に学ぶ姿」につながるICT活用の方法を追究していきたいと思います。

*Scratch：小学生でも簡単にプログラミングができるツール <https://scratch.mit.edu/>

教育活動あれこれ

1月10日 始業式 書初大会
いよいよ3学期が始まりました！



3年生は「明るい心」、4年生は「春の立山」、5年生は「雪の大地」、6年生は「強い信念」を毛筆で集中して書きました。



1年生は「へいわ」、2年生は「あく手」を硬筆墨で、のびのびと書きました。

12月18日
管楽器・合唱クラブの
クリスマスコンサート



今までの練習の成果を家族や学校の先生に披露しました。素敵な音色を奏でました。